

JR東日本労働組合 もりおか

東日本ユニオン

盛岡地方本部

発行責任者 鈴木 雅裕

2020年12月17日 No.14

第7回定期大会開催

盛岡地本は東日本ユニオンの結成からちょうど丸7年にあたる12月16日、平泉町「舞鶴荘」で第7回定期大会を開催しました。当日は、今シーズン最強の寒波到来で大雪となり、盛岡支社内の多くの線区で運転中止や遅れが発生しました。一時は大会の開催も危ぶまれましたが、組合員の熱意と努力によって無事、大会開催の運びとなりました。



また、大会の開催にあたってはマスクの着用はもちろんのこと、会場入口での検温と消毒の実施、ソーシャルディスタンスを徹底しました。大会に参加された組合員のみなさんのご協力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

鈴木執行委員長は「コロナ禍の中、感染防止対策をはかりながら試行錯誤の一年であった。日頃の活動に感謝を申し上げたい」「年末手当の取り組みでは2.2ヶ月回答となったが、全組合員で檄布やホームページへの投稿などを行い、本部交渉を支えてきた」「他地本で組織拡大があった。盛岡地本も組織拡大をめざしていこう」と挨拶しました。

質疑では「駅の委託化が進む中、折り返し駅での列車の清掃や消毒作業など、駅で働く人は益々大変になる」「駅では同じ年代のLiViT社員とJR社員が同じ仕事をしている。労働条件の違いからプロパー社員のモチベーションが下がっている」「国鉄採用もあと2年ほどでみんな退職となる。会社的にも一つの大きなポイントになるだろう」「ジョブローテーションで転勤が発生している。特に新幹線乗務員は盛岡から仙台に転勤となるなど、転勤の範囲が大きく不安の声がある」「営業職場の



委託化が進んでいる。このままでは、営業はすべて委託会社の社員だけになってしまうのではないかと、参加した組合員から活発な発言がありました。

盛岡地本の新たな一年がスタートしました。全組合員で頑張っていきましょう！

チームワークを発揮して、明るく楽しく活動しています！